

温かい真心ありがとうございます

本会に寄附金・支援金をいただきました。
 本当にありがとうございました。(平成26年7月末現在)
 平成26年5月7日 株式会社ブリッジさまより社会福祉事業のために…………… 64,166円
 平成26年6月4日 株式会社ブリッジさまより社会福祉事業のために…………… 62,390円
 平成26年7月3日 株式会社ブリッジさまより社会福祉事業のために…………… 51,630円

赤い羽根共同募金にご協力ください

共同募金運動は、10月1日より全国一斉に行われます。県民の皆様の温かい善意とたすけあいの心に支えられ、県内における民間福祉活動の発展と自助・公助の谷間の活動財源として、さらなる期待が寄せられております。また、震災により特に沿岸市町村の地域福祉の充実が一層求められる中、福祉コミュニティの構築に向けて、大きな役割を果たしております。なお、12月からは歳末たすけあい募金も併せて行います。
「ほんの小さなやさしさで広がる大きな支援の輪」
 多くの皆様のご協力とご参加をお願いします。

みやぎアピール大行動2014のお知らせ

日時 9月15日(月・祝)
 場所 せんだいメディアテーク1F オープンスクエア
「今こそ生かそう障害者権利条約！進めよう私たちの進む制度改革を」～医療・介護・障害者年金・生活保護・障害者総合支援法私たちの生活はどうなるの～
 アピール集会 12時30分～15時
 講演 伊藤 周平氏(鹿児島大学大学院教授)
 当事者アピール
 アピール行進 15時40分～【コース 仙台市民広場(予定)⇒仙台駅前仙都会館前解散】
 資料代 500円
 連絡先 鷲見 090-9740-7799 (FAX: 022-299-1279)

東日本大震災に係る復興支援及び福祉施策等に対する要望書を提出

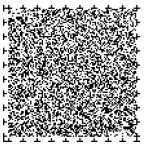
本会では宮城県内の福祉関係団体から要望を取りまとめ、平成26年7月15日に宮城県保健福祉部社会福祉課に対し、国及び宮城県に対する要望書を提出しました。内容としては、東日本大震災に関する要望が3項目、福祉施策などに関する要望が3項目となっています。要望事項については、回答が届き次第、ホームページなどで報告します。

オススメ製品のご紹介

県内の障害者就労支援事業所で作るオススメの製品を紹介します。

- おせんべいやドライフルーツ、コーヒー、ビーズ製品、フェルト製品一つひとつを丁寧にまごころこめて作製しております。
- 手作りおせんべい**…昆布と鰹ダシ、宮城の地酒、塩釜の藻塩を使用した、体に優しいおせんべいです。素材を活かした深い味わいは小さいお子さんからお年寄りまでご家族みんなで安心して召し上がれます。
- ドライフルーツ**…栄養価が高く、美容や健康にとっても良い商品です。種類も豊富で選ぶ楽しさもあります。
- コーヒー**…厳選した生豆を仕入れ、生豆のピッキング、自家焙煎、袋詰めを行っています。旬のストレートは月ごとに産地と農園を変えて名品をご用意しております。ドリップバックコーヒーやアイスコーヒーも加わり、手軽に飲むことが出来ます。
- ビーズ・フェルト製品**…季節に合わせた製品の一つひとつ丁寧に作製しております。世界にたった一つの商品です。

NPO法人みやぎセルフ協働受注センターでは、働く障害者の方々に応援しています！
 URL <http://www.miyagi-selp.org>
<http://www.facebook.com/miyagiselp>



社会福祉法人 仙台市手をつなぐ育成会 ホープすずかけ
 〒983-0824 宮城県仙台市宮城野区鶴ヶ谷5丁目22-1 TEL/022-252-4640 FAX/022-252-4672
 ☒ suzukake@crest.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.sendaishi-ikuseikai.or.jp/publics/index/72/0/>

復興 被災地のいま

被災者に寄り添った復興を目指して

多賀城市社会福祉協議会

多賀城市は東日本大震災によって地震による被害はもちろんの事、津波被害により、市内の面積の33.7%に相当する約662ha(砂押川の南側のほぼ全域、鶴ヶ谷・丸山地区の一部及び大代地区)が浸水し、尊い命と生活の場が失われる等、甚大な被害を受けました。現在も多くの方が民間賃貸借上住宅(みなし仮設住宅)やプレハブ応急仮設住宅での生活



地域サロン活動の様子

を余儀なくされています。市内には811戸の民間賃貸借上住宅が点在しているとともに、市内6カ所に373戸のプレハブ応急仮設住宅を整備し、295戸が現在入居されています。(平成26年5月31日現在)
 多賀城市では、民間賃貸借上住宅入居者、プレハブ応急仮設住宅及び、在宅で被災されたすべての方を支援対象として、多賀城市社会福祉協議会は多賀城市から業務を受託し、多賀城市社協復興支えあいセンター(以下、「復興支えあいセンター」)を組織して一日でも早く震災前の生活へ戻るよう支援活動を行っています。
 復興支えあいセンターは被災者に寄り添った支援活動を図る為、市内6カ所のプレハブ応急仮設住宅の内、国府多賀城駅南地区仮設住宅、多賀城公園野球場仮設住宅、山王市宮住宅跡地仮設住宅の3カ所の空き部屋に拠点事務所を設け、生活上の相談に応じる相談窓口を開設しています。なお訪問活動については、多賀城市が毎年度実施している被災者現況調

査において訪問を希望した世帯への訪問や、自立再建に向けての個別ケースワークを生活支援相談員が2名1組で訪問面談を行い、各支援機関と連携しながら対応しているところです。
 また、被災地域において在宅生活をされている方々の孤立防止や、身近な場所に住民が集まり、共に楽しい時間を過ごす場の提供を目的に、津波浸水地区を重点として4カ所の行政区の集会所等に「誰でも気軽に参加できる」絆づくり地域サロン」を、月1回開催しています。他にも見守り体制の構築や復興各種イベントの総合調整及び、生活支援ボランティアとの調整を展開しております。
 被災者の方々の自立再建の要であります災害公営住宅については、市内4カ所に532戸の整備が計画され、現在建設が進められています。一番早い入居は桜木地区に建設される160戸の災害公営住宅となり、平成26年の秋頃の予定とされています。



地域訪問活動の様子

また多賀城市の災害公営住宅入居募集は、整備が予定されている4カ所について一斉に行われ、平成26年3月末には災害公営住宅入居や入居場所の決定がなされており、幾分は被災者の住宅不安が解消されておりますが、訪問活動を行って日々感じる事は、震災から3年半が経過し、健康面や生活費での相談が増加しているとともに、内容も深刻なものとなってきている事が感じ取れます。復興支えあいセンターは、そういった方々の支えとなるべく、行政の被災者支援窓口や関係機関並びに民生委員等と連携を深め、「つながらず、支えあい・見守り合同」の支援を行い、被災者一人ひとりと心を合わせながら共に復興にむけ進んでまいります。
 なお、復興支えあいセンターの支援とは別に多賀城市では、プレハブ応急仮設住宅に入居されている方々の支援として、民間の事業者である(株)共立メンテナンスへ安否確認やコミュニティ組織への支援等を委託し、年間をとおし常駐する形態で支援活動を行っております。(寄稿)

